



『自分にできることを少しずつ』

校長 横田和長

2024年が始まりました。元日に起きた、能登半島地震では、亡くなられた方々に哀悼の意を表しますと共に、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。中学生たちが、集団避難で、故郷を離れなければならないという状況を思うと、胸が締めつけられる思いです。『自分に何かできることはないか』『今、何ができるのか』と、報道などを目の当たりにすると考えさせられます。

実は、私は東日本大震災発災後、東京都から被災地に教員を派遣するという知らせをいただきました。これならば自分の力も何か少しでも役に立てるのではという想いで、震災2ヶ月後の5月に宮城県登米市立津山中学校に赴任しました。着任してすぐに当時の校長先生に南三陸町の志津川という町に連れて行っていただきました。その日は志津川中学校の始業式。山積みになった被災物の中を中学生たちが下校している姿を目の当たりにし、被災地と東京との大きな隔たりを感じました。目の前にはそこに暮らしていた人たちの生活用品などが無残に転がっていました。私は言葉もなく、ただ立ち尽くし、無力さを感じたのを今でも覚えています。

それから私は毎年、南三陸町を訪れ、震災後の復興へ向けた町の姿の変容を見てきました（最近ではコロナ禍で、現地には行けておりませんが）。かつて数多くの被災物があった場所は、10m以上の高さまで盛り土されています。その中に、防災庁舎が今もなお津波被害の恐ろしさや自然の脅威を静かに、でもはっきりと伝えています。

南三陸町をはじめ、被災された沿岸部の地域に防潮堤や津波を想定した町の復興が進められています。でも自然災害はなくなるわけではなく、また災害を防ぎきれぬわけでもありません。いかに被害を減らしていくか、いかに多くの命を救うのが重要になってくると思います。災害が起きたとき、自分の命は自分で守る。自分の命を守ること、これは自分だけが助かるという意味ではありません。自分の命を守ること、さらに助けが必要な人を支援するというのが大切です。『自助』と『共助』です。

東日本大震災でも、震災の“風化”が課題であると耳にします。以前、被災した防災庁舎の前に立ったとき、観光で来られた方でしょうか、庁舎の前でこやかに記念写真を撮っているグループがいました。ご存じのように、防災庁舎は震災当時、津波が押し寄せているにもかかわらず、女性職員が最後まで住民に避難を呼びかけ、ご自身の命を亡くされた場所でした。その遺構の前で、こやかにポーズをとって記念写真……。私はその光景を見て、言葉がありませんでした。また、寂しいですが、これが風化ということなのかと感じました。

今、能登半島に行って、何かしようと思っても、なかなか行けません。でも、行けなくても、小さなことでよいのです。小さなことから何か行動を始めていくことが大事です。何か大きなことをやらなければと思っても、それをすぐに実行することはできません。自分でも無理なくできることを考えて、実際に少しずつでも行動していくことが、今は大事だと考えます。被災された方々に思いを寄せながら、自分ではわずかしかやっていないということでも、一人でも多くの方が行動すれば、やがてそれは大きな力となっていくのだと思います。

席書会 令和6年1月13日 ①(1年) ②(2年) ③(3年)

1月13日(土)に席書会を行いました。新年を迎えて、心新たに1年間頑張れるよう丁寧に心を込めて書きました。体育館で各学年が一同に集まり書き初めをする機会というのは、貴重な体験だと思います。よい緊張感で集中できました。また、保護者の皆様に直接賞賛の言葉をかけていただいたのも、生徒たちの励みになりました。ありがとうございます。

実施するにあたり御協力いただきました講師の三上先生、学校支援本部JOINTの皆様感謝を申し上げます。



小学校図書館と中学校図書館の交流が始まりました



1月19日(金)の放課後、図書委員会を代表して7名の生徒が富士見丘小学校の図書館を訪問し、図書委員とクラフトデザイン部の生徒が作成した「おみくじ付しおり」(105枚)を小学校司書の森さんに渡してきました。

今後も色々な活動を通して交流を深めていく予定です。

育休代替(臨時的任用)教員の村上先生より

富士見丘中学校のみなさん10ヶ月間ありがとうございました。

10ヶ月を振り返ると宿泊学習や行事、授業を通してみなさんと関わり合い、毎日楽しい日々を過ごさせていただきました。どんな時も明るく元気な姿から、いつもパワーをもらっていました。これからも、1日1日を大切に!無理せず、頑張ってください。離れたとしても、遠くからみなさんのご活躍を期待しています。本当にありがとうございました。

村上 陽向

令和4度に教職員の育児休業・産後パパ育休の制度が改正されました。令和5年度からは産休・育休代替教員の前倒し任用が導入され、産休・育休期間の前から臨時的任用教員に来てもらうことができるようになりました。今年度は、2人の社会科教員がその制度を利用したため、10ヶ月もの期間、村上先生に富士見丘中学校にいただきました。授業も、行事も、そして硬式テニス部の顧問として、お世話になりました。ありがとうございました。

小学生部活動体験 令和6年1月17日・18日・19日

今年度も、富士見丘小学校、久我山小学校、高井戸小学校、高井戸第二小学校の5・6年生の希望者を中学校に招待して、部活動を体験してもらいました。参加人数は3日間で延べ60名。一番多かったのはバスケットボール部、次いで吹奏楽部、硬式テニス部でした。今年はダーツボランティア部にも集まっていました。

どの部活動においても、部長が西昇降口に児童を迎えに来て、一緒に活動し、終了時刻に西昇降口に連れて来るといった流れでした。そこからは、学校支援本部の方々が手分けをして小学校まで、あるいは自宅付近まで連れて帰って下さいました。ただし、富士見丘小学校の児童はもともとの学校からの帰宅経路なので、北西門で解散しました。児童に怪我なく楽しんでもらえてよかったです。



バスケットボール部



硬式テニス部



ダーツボランティア部

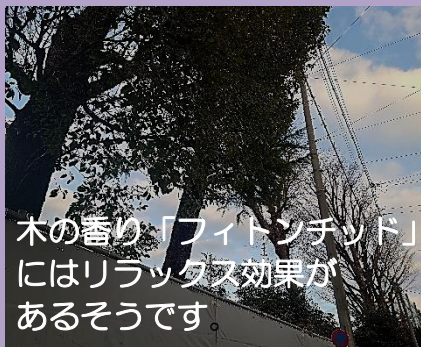


工事現場から最後の「夏みかん便り」

1月中旬、夏みかんが届きました。夏ミカンには寒い冬を越して、甘くなるのだそうです。樹木伐採のギリギリまで待って収穫し、学校まで届けて下さいました。夏ミカンは甘酸っぱくて、ほろ苦く、切ない味がしました。白石建設の皆さま、お心遣いありがとうございました。

解体 キングダム

1月に入り、体育館の廃材の分別が終わると、東館の解体が始まりました。本格的な校舎取り壊しに向けて、富士見ヶ丘通り側の樹木の伐採が行われました。朝や夜、富士見ヶ丘通りを歩くと、まだ木の香りが漂っています。



木の香り「フィトンチッド」にはリラクゼーション効果があるそうです。

1月18日、午前5時半解体作業で使われる特殊大型重機が入りました



桜は約70歳、木造校舎の頃からあった樹木は老齢期を迎えていました



1月25日



プールの壁



プールの底を剥がした金属の塊

2月の行事予定

月	日	曜日	行	事
2	1	木	菅平スキー移動教室（2年）	
	2	金	菅平スキー移動教室（2年）	都立高推薦発表
	3	土	※【 】は学校支援本部 JOINT の関連事業です。	
	4	日		
	5	月	全校朝礼	避難訓練
	6	火	区意識調査3回目	
	7	水	杉教研	①カット
	8	木	常任委員会	④カット
	9	金		
	10	土	都内私立高一般入試	
	11	日	建国記念の日	
	12	月	振替休日	
	13	火	評議会	
	14	水	安全指導 ESAT-J（1年・2年）	職員会
	15	木	昼学活・昼清掃	展示準備 15:15～
	16	金	展示見学（生徒）	
	17	土	土曜授業	展示見学（保護者） 新入生保護者説明会（現6年生）
	18	日		
月	19	月	生徒朝礼・学年朝礼（2年）	
	20	火		
	21	水	都立高一次・分割前期検査（3年）	
	22	木	第4回定期考査	
	23	金	天皇誕生日	新入生上履き・体育着・ジャージ販売 14:00～16:00
	24	土		
	25	日		
	26	月	第4回定期考査	
	27	火	第4回定期考査	放課後合唱練習始
	28	水		
	29	月	常任委員会	

おみくじ付きしおり



先生たちも席書に参加

席書会、学校によっては書初めという場合があります。席書会は年間いつ行っても席書会ですが、書初めは年の初めに行います。

では、「セキショ」なのか「セキガキ」なのか。東京でも場所、世代によって異なります。それでも、「席書会」は「セキショカイ」、「席書」は「セキガキ」で「会」は付けないでよぶことが多いです。

戦後日本では、日本的なものを学校で教えない時期がありました。その後、学習指導要領の改訂で1958年から学校に「書」が復活し、芸術の「書道」と国語科の「書写」が区別されました。江戸時代で行われていた席書が、学校行事として行われるようになった時「セキショカイ」でも「セキガキ」でもOKになったのでしょうか。

せき - がき【席書】

- ① 集会の席上などで、即興的に書画を書くこと。また、その書画。席画。
- ② 江戸時代、手習いの師匠が、門弟その他の人々を集めて開いた習字の会。集会の席上でいっせいに制作して展覧すること。「せきしょ」ともいう。